

染 駆 者 ち ち の 挑 戦

「ナッセンジャー」シリーズで市場を拓く ①

朝倉染布



朝倉剛太郎社長

インクジェットテキスタイルプリンターを導入する産地企業が増えていく。伝統に真打ちされた産地の技術を核に、表現力に優れた多品種・小ロットに対応し、生産効率を高められるプリンターで自社製品の開発や市場開拓に挑戦する意欲的な経営者たちだ。コニカミフルが東京都千代田区の「ナッセンジャー」シリーズを活用し新境地に臨む「染駆者」を紹介する。

ナイロン染色に挑戦

多分野での可能性期待

1892年創業の、朝倉染布(群馬県桐生市)は、120年を超える長い歴史の中で一貫して染色加工技術に取り組んでいく。遊泳・競泳用不着やスポーツウエアなどを手掛けており、生機の精練加工から出荷作業まで一貫型のモノ作りを強みとする。各種加工技術も得意とし、吸水速乾や撥水をはじめ、盗撮防止の赤外線吸収、細菌の増殖を抑える制菌など様々な技術を駆使して付加価値提案を図っている。

当時は生産量の3割以上を占めるほど遊泳用の水着は好調で、ピーク時は月産2万枚ほど受注していたという。しかし、増加傾向にあった受注も10年以降は減少の一途をたどる。海外生産の廉価製品の台頭や美白、UVカットといった風潮が若者の海やプール離れを招

き、消費量の鈍化につながったことが原因とされ、現在は主に試作品生産と使っている段階だ。とはいえ「3割ぐらい早くなくなった」とプリント速度の向上や「これまでより濃い色が出て、色域も広がった」と多様な表現にも満足する。また、堅牢度に関しても「無地染めと比べても遜色ない」と言っている。7~8年前から注力するスポーツウエア分野のインナー商品の一部に同機を活用したところ、客先の反応も良く、前向きな商談が進むなど今後の活躍に期待が膨らむ。

朝倉社長は「ナイロン素材は風合いや伸縮性に優れた吸水速乾性で、柔らかい肌触りなど自社企画をふろしきなど自社企画の生地や製品が占める。おいの発生を抑える特性も備える。今後量産化をバケツのように水を運ぶこともできる。ふろしきをはじめ自社製品は好調で、どこにふろしきの売上げは百貨店や通販などを中心に2けた%増で推移している。



昨年8月に導入した「ナッセンジャーPRO120」

業行による「ものづくり補助金」の対期待できるスポーツイ象事業に採択されたことも分野を深耕していく。それに伴いナイロン需要の増加も期待され、ナッセンジャーPRO120の導入は今後の展開を考え、20の実稼働でも「可能性を広げる設備投資だった」と(朝倉社長)と意欲を見せる。

「商品が多、現在ではインクジェットプリンター使用の4分1